

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-94409

(P2010-94409A)

(43) 公開日 平成22年4月30日(2010.4.30)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 5 D 34/00 (2006.01)	A 4 5 D 34/00	5 1 0 Z
B 6 5 D 83/00 (2006.01)	B 6 5 D 83/00	J
	B 6 5 D 83/00	Z
		3 E 0 1 4

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2008-269684 (P2008-269684)	(71) 出願人	000248602
(22) 出願日	平成20年10月20日 (2008.10.20)		株式会社篠原
			東京都板橋区赤塚二丁目30番6号
		(74) 代理人	100077986
			弁理士 千葉 太一
		(72) 発明者	笠井 孝浩
			東京都豊島区南長崎2丁目19番14号
			株式会社篠原
		(72) 発明者	新井 健吾
			東京都豊島区南長崎2丁目19番14号
			株式会社篠原
		Fターム(参考)	3E014 PA01 PA02 PA03 PC03 PE25

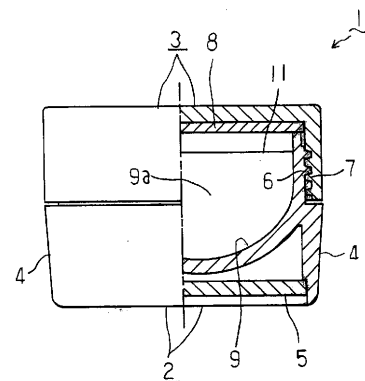
(54) 【発明の名称】化粧料用容器

(57) 【要約】

【課題】アイライナー化粧料の筆状塗布具への付着作業を楽に行える化粧料用容器を提供する。

【解決手段】アイライナー化粧料を収容する容器1は、底面と側面を閉塞し上面を開放した容器本体2と、この容器本体2の開放上面を密閉する開閉可能な蓋体3とからなり、容器本体2内部には収容部9と台部を設け、前記台部と前記収容部9との境界となる収容部9の縦壁9a上端と台部の縁の境がアイライナー化粧料の抜き部であるエッジ11を形成するように構成する。そして、収容部9に収容した化粧料を別途用意した筆状塗布具の筆先に付着させ、抜き部であるエッジ11で余分な化粧料を抜き落とすとともに、台部上面で筆先を整形し、アイラインを引く。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

底面と側面を閉塞し上端を開放した容器本体と、この容器本体の開放上面を密閉する開閉可能な蓋体とからなる化粧料を収納する容器であって、容器本体内部に収容部と台部を設け、前記台部の所定部分には扱き部を設けたことを特徴とする化粧料用容器。

【請求項 2】

扱き部は、側部から中央に向けて張り出した台部のエッジで構成したことを特徴とする請求項 1 記載の化粧料用容器。

【請求項 3】

扱き部は、側部から中央に向けて張り出した台部に形成した窪みで構成することを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載の化粧料用容器。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、アイライナー、口紅、ファンデーションなどの各種化粧料を収容するのに好適な化粧料用容器に係り、特に、収容した化粧料を筆やブラシなどに付着させて化粧を行うための化粧料用容器に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、例えば化粧料を収容する容器としては、化粧料を収納する窪み及び筆状塗布具を収容する窪みを有する本体と、前記各窪みを開閉可能に被覆する二つのカバーとを備えたもの（特許文献 1）が提案されている。この容器は、前記筆状塗布具の筆先に前記一方の窪みに収容されている化粧料の表面を擦って、化粧料を付着させ化粧を行うというものである。また、粘度の高い化粧料を収容する容器としては、有底筒状の容器本体と、前記容器本体内に収納する筆と一体化した筆付きキャップとからなるもの（特許文献 2 参照）が提案されている。この容器は、非使用時において前記筆が容器本体内の化粧料に挿入され浸かった状態となり、使用時においては一方の手に前記筆付きキャップを持ち、他方の手に前記容器本体を持って化粧をするように構成されている。また、容器本体内側の出口近傍に扱き部を設け、この扱き部で筆を引き抜く際に余分な化粧料を扱き落とし、さらに、前記扱き動作後の筆先の整形は、前記容器本体の口部縁や該口部内面を筆先で撫でるようにして行っていた。

【特許文献 1】特表 2000-516481 号公報

【特許文献 2】特開平 09-103322 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

前記特許文献 1 の化粧料用容器は、化粧時の筆状塗布具の筆先に余分に付着した化粧料を落とす動作、あるいは筆先を整形する動作を、それぞれ化粧料上面で行うので、上面部分の化粧料が意に反して余分に付着するため、思い通りに付着量調整や筆先整形をすることが難しいという問題があった。

【0004】

前記特許文献 2 の化粧料用容器は、扱き部が環状に形成されていて、この扱き部を通して筆先は視認できないので、筆先を見ながら扱き操作をすることができず、筆先に付着した液量を確認しにくいという、筆先を整形する際、容器本体の口部外側、口部縁及び口部内側などに液状化粧料が付着して汚れるという不都合もある。

【0005】

本発明は、前記問題や不都合を解消することを課題とし、この課題を解決した化粧料用容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

前記目的を達せするために、請求項 1 に係る発明は、底面と側面を閉塞し上端を開放した容器本体と、この容器本体の開放上面を密閉する開閉可能な蓋体とからなる化粧料を収納する容器であって、容器本体内部に収容部と台部を設け、前記台部の所定部分には扱き部を設けたものである。

【 0 0 0 7 】

また、請求項 2 に係る本発明は、請求項 1 記載の発明において、扱き部を、側部から中央に向けて張り出した台部のエッジで構成したことを特徴とするものである。

【 0 0 0 8 】

さらに、請求項 3 に係る本発明は、請求項 1 又は請求項 2 記載の発明において、扱き部を、側部から中央に向けて張り出した台部に形成した窪みで構成することを特徴とするものである。

10

【発明の効果】

【 0 0 0 9 】

請求項 1 に係る本発明は、扱き部で余分な化粧料を除去するとともに、台部で筆先整形作業を行うので、従来の特許文献 1 の容器のように余分な化粧料が付着することがなく、また、特許文献 2 の容器のように、収容部縁や収容部外側が汚れないうえ、扱き部が目で見えるので、適量となるよう筆先の化粧料を確実に扱き落とすことができるという効果を奏する。

【 0 0 1 0 】

また、請求項 2 に係る本発明は、請求項 1 に係る発明の効果に加えて、側部から中央に向けて張り出した台部のエッジで余分な化粧料を確実に扱き落とすことができるという効果を奏する。

20

【 0 0 1 1 】

さらに、請求項 3 に係る本発明は、請求項 1 又は請求項 2 に係る発明の効果に加えて、側部から中央に向けて張り出した台部に形成した窪みで余分な化粧料を確実に扱き落とすことができるという効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 2 】

次に、本発明をアイライナー化粧料の容器に適用した好適な第 1 の実施形態を添付図面の図 1 ～ 図 3 に基づいて詳細に説明する。ここにおいて図 1 は容器の部分縦断面図、図 2 は容器本体の平面図、図 3 は図 2 の A - A 線断面図である。

30

【 0 0 1 3 】

図 1 に示すように、容器 1 は、容器本体 2 と蓋体 3 とからなり、前記容器本体 2 は、上面を開放し、側壁 4 と底板 5 を有し、前記側壁 4 上部に雄螺旋 6 を設けてなり、また、前記蓋体 3 には、前記容器本体 2 の雄螺旋 6 に螺合する雌螺旋 7 を設け、その天部内面には容器本体 2 上縁に圧接する密閉用のパッキン 8 を設けてある。

【 0 0 1 4 】

図 2 及び図 3 に示すように、容器本体 2 内側には、アイライナー化粧料（図示せず）の収容部 9 と、この収容部 9 に連続して形成した台部 10 とを設け、前記台部 10 と収容部 9 との境界となる収容部 9 の縦壁 9 a 上端と台部 10 の縁の境がアイライナー化粧料の扱き部であるエッジ 11 を形成する。前記台部 10 上面は、前記エッジ 11 から側壁 4 に向けて若干傾斜させてある。前記収容部 9 と台部 10 は、前記側壁 4 と一体的に形成されている。

40

【 0 0 1 5 】

図 2 及び図 3 に示すように、前記台部 10 上面は、筆状塗布具（図示せず）の筆先を整えるためのものであり、またエッジ 11 は、先端が鋭角で全体が湾曲形状に伸びている。

【 0 0 1 6 】

上記アイライナー化粧料用の容器 1 を用いてアイライナーを引くには、蓋部 3 を外した容器本体 2 をテーブル（図示せず）に載置し、あるいは手に持ち、収容部 9 に収容したアイライナー化粧料を別途用意した筆状塗布具の筆先に付着させ、筆先を収容部 9 側に向け

50

て扱き部であるエッジ 1 1 で余分なアイライナー化粧料を扱き落とし、適量のアイライナー化粧料が付着した筆先でアイラインを引く。そして、前記扱き動作によって扱き落とされたアイライナー化粧料はエッジ 1 1 に連続する縦壁 9 a に沿って収容部 9 に戻る。

【 0 0 1 7 】

続いて、本発明をアイライナー化粧料を収容する容器に適用した第 2 の実施形態を添付図面の図 4 ～図 6 に基づいて説明する。ここにおいて、図 4 は容器の部分縦断面図、図 5 は容器本体の平面図、図 6 は図 2 の B - B 線断面図である。

【 0 0 1 8 】

図 4 に示すように、容器 2 1 は、容器本体 2 2 と蓋体 2 3 とからなり、前記容器本体 2 2 は、上面を開放し、側壁 2 4 と底板 2 5 を有し、前記側壁 2 4 上部に雄螺旋 2 6 を設けてなり、また、前記蓋体 2 3 には、前記容器本体 2 2 の雄螺旋 2 6 に螺合する雌螺旋 2 7 を設け、その天部内面には容器本体 2 2 上縁に圧接する密閉用のパッキン 2 8 を設けてある。

10

【 0 0 1 9 】

図 5 及び図 6 に示すように、容器本体 2 2 は、アイライナー化粧料（図示せず）の収容部 2 9 と、この収容部 2 9 に連続して形成した台部 3 0 とを設け、前記台部 3 0 と収容部 2 9 との境界となる収容部 2 9 の縦壁 2 9 a 上端と台部 3 0 の縁の境がアイライナー化粧料の扱き部であるエッジ 3 1 を形成する。前記台部 3 0 上面は、前記エッジ 3 1 から側壁 2 4 に向けて若干傾斜させてある。また、前記台部 3 0 には、収容部 2 9 との境界部分であるエッジ 3 1 中央にその開口端部 3 2 a が位置する扱き部である窪み 3 2 を設けてある。

20

【 0 0 2 0 】

図 5 及び図 6 に示すように、台部 3 0 上面は、筆状塗布具（図示せず）の筆先を整えるためのものであり、またエッジ 3 1 は、先端が鋭角で全体が湾曲形状に伸びている。本実施例では、前記エッジ 3 1 と、その中央部に設けた窪み 3 2 が扱き部であり、これら扱き部で筆塗布具の筆先を扱うことが可能である。

【 0 0 2 1 】

上記アイライナー化粧料用の容器 2 1 を用いてアイライナーを引くには、蓋部 2 3 を外した容器本体 2 2 をテーブル（図示せず）に載置し、あるいは手に持ち、収容部 2 9 に収容したアイライナー化粧料を別途用意した筆状塗布具の筆先に付着させ、筆先を収容部 2 9 側に向けて扱き部であるエッジ 3 1、又は窪み 3 2 の周縁で余分なアイライナー化粧料を扱き落とし、適量のアイライナー化粧料が付着した筆先でアイラインを引く。そして、扱き動作によって扱き落とされたアイライナー化粧料はエッジ 3 1 及び窪み 3 2 の開口端部 3 2 a に連続する縦壁 2 9 a に沿って収容部 2 9 に戻る。

30

【 0 0 2 2 】

なお、本発明は上記各実施形態になんら限定されるものではなく、例えば、適用する化粧料は、アイライナーに代えて口紅やファンデーションなどであってもよい。また、扱き部は、エッジではなく台部 1 0、3 0 の上面に突起などを形成して構成してもよい。さらに、第 2 の実施形態においては、エッジ 3 1 は設けなくてもよいほか、窪み 3 2 は複数設けてもよい。またさらに、前記各実施形態では、本体容器をメイン部分と別途パーツの底板とで構成しているが、一体形成による単一パーツで構成してもよい。

40

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 3 】

【図 1】第 1 実施形態における容器の部分縦断面図。

【図 2】同じく容器本体の平面図。

【図 3】同じく図 2 の A - A 線断面図。

【図 4】第 2 の実施形態における容器の部分縦断面図。

【図 5】同じく容器本体の平面図。

【図 6】同じく図 5 の B - B 線断面図。

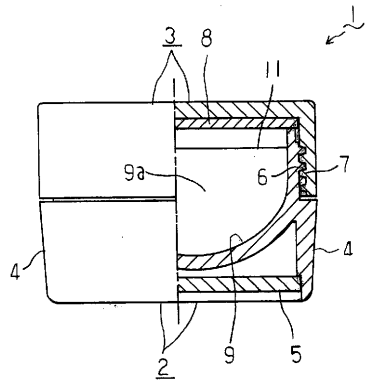
【符号の説明】

50

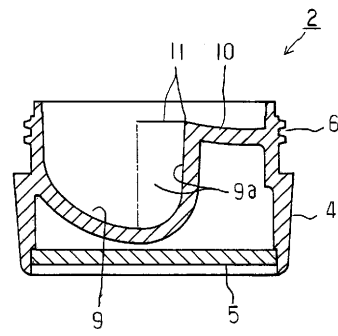
【 0 0 2 4 】

1	容 器	
2	容 器 本 体	
3	蓋 体	
4	側 壁	
5	底 板	
6	雄 螺 旋	
7	雌 螺 旋	
8	パ ッ キ ン	
9	収 容 部	10
9 a	縦 壁	
1 0	台 部	
1 1	エ ッ ジ	
2 1	容 器	
2 2	容 器 本 体	
2 3	蓋 体	
2 4	側 壁	
2 5	底 板	
2 6	雄 螺 旋	
2 7	雌 螺 旋	20
2 8	パ ッ キ ン	
2 9	収 容 部	
2 9 a	縦 壁	
3 0	台 部	
3 1	エ ッ ジ	
3 2	窪 み	
3 2 a	開 口 端 部	

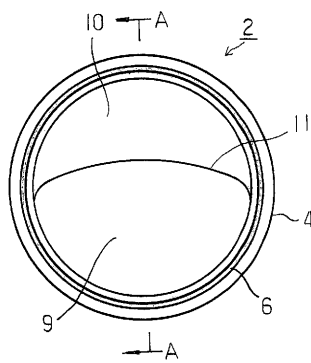
【図 1】



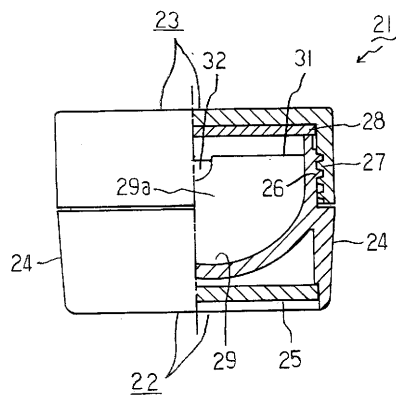
【図 3】



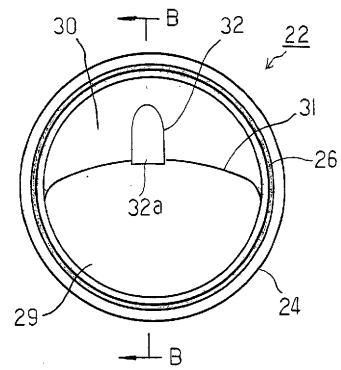
【図 2】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

